

ICT 活用プロジェクト研究会報告 「養護教育におけるコンピュータ活用の実際」

10 月 21 日（火）大阪府立茨木養護学校のご協力を得て、開催しました。

前半の部は「重度・重複コース」と「情報コース」の授業参観をさせていただきました。

「重度・重複コース」の授業では、生徒が、さまざまな入力支援機器やオンスクリーンキーボードなどを活用しながら、文章を作成している授業でした。実際に障害のある生徒に合わせた工夫をしながら、パソコンを活用している様子を見せていただけたことは、貴重な機会となりました。「情報コース」の授業では、パワーポイントでプレゼンテーションを作成している授業でした。新設された、養護学校高等部の「情報コース」での取り組みに触れる機会となりました。また、パソコン室に並べてあった、手作りスイッチをはじめとするさまざまな機器は、日々目の前にしている児童・生徒たちを思い浮かべながら、自分でも作成してみようかと思わせるものが多数ありました。

後半の部は、各学部の取り組みの紹介と山本先生から「上肢に障害がある児童・生徒のコンピュータ利用」というテーマでお話いただきました。

各学部の取り組みの紹介では、茨木養護学校の情報教育全体の紹介や児童・生徒に合わせた工夫などの紹介などでした。小型キーボードをブックエンドに貼り付けて活用するまでに考えてきた過程の話、おもちゃにスイッチをつけて遊ぶことからスイッチの活用について取り組んでいく話など、実際に活用している機器や教具を提示して具体的な内容を交えての説明でした。

山本先生からは、「Windows のユーザー補助機能のように、OS に標準で装備されている機能の活用」、「マウスが難しいときにトラックボールの活用、Windows のマウスキー機能を用いテンキーの活用、ジョイスティックやゲームパッドの活用」、「通常のキーボードが使いにくいときにキーガードやオンスクリーンキーボードの活用」、「単語予測機能のあるソフトの活用」など、機器やプロジェクターでの実際の提示しながらの話でした。また、通常学校を支援している話もあり、校長を通じて要請があれば、学校に出向いたり、茨木養護学校に来ていただいていた支援をします、と言うありがたい話もありました。実際には、出向いたときには、持参できる機器が限られているので、対象児童・生徒や保護者とともに茨木養護学校に来ていただいた方が、より良いとのことでした。

天候も悪く、平日の 2 時からの研究会、とすることで参加者が 18 名と少なかったことは残念ではありますが、参加された方々にとっては、日々のヒントが得られたものであったのではないのでしょうか。また、授業参観を始め全面的にご協力いただいた茨木養護学校には感謝いたします。ありがとうございました。

最後に、参加者の感想から

「数々の入力補助具はたいへん参考になりました。ありがとうございました。障害は多種多様で、さらに多くの入力補助具が必要になります。今後ともよろしく願います。」

「実際の授業がどのように行われているのかを参観させて頂き、とても有意義でした。」

「山本先生のお話はいつも内容豊富で非常に勉強になります。特にその話題と事物に限らず、他への応用を思いつかせてくれるような本質的な知識を得ることができてうれしいです。」